

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 5月28日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520445

研究課題名（和文）東アジア複言語コミュニケーション・データベースの構築

研究課題名（英文）The Database OnPlurilingual Language Communications In East Asia

研究代表者

砂岡 和子（SUNAOKA KAZUKO）

早稲田大学・政治経済学術院・教授

研究者番号：70257286

研究成果の概要（和文）：

東アジアにおける複言語コミュニケーションの実態調査とその実践例を、日本語・中国語による遠隔ビデオ討論場面から収集し、データベースを構築した。データベースに基づいて定量・定性分析を行い、複言語コミュニケーションのメカニズムを分析した。有効性が検証できた実践例を教育用サイトに組み込み、複言語使用の外国語教育に役立てた。複言語コミュニケーションの未来を展望するシンポジウムを JACET と共催し、東アジアにおける複言語交流の普及を呼びかけた。

研究成果の概要（英文）：

The study conducted a survey and collected the best practice data on cases by plurilingual speakers and learners, who have the abilities and identity in different languages and experiences in a Chinese and Japanese cross-cultural environment. Based on the quantitative and qualitative analysis of these collection, developed the database on multilingual and plurilingual communications in the East Asia. The platform of language education was prepared separately for the teachers and learners of multilingual and plurilingual language communications. On March 17th, 2013, we held the symposium on foreign language education in the future, commemorative by JACET.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2011年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：外国語教育

科研費の分科・細目：3005-1

キーワード：複言語,言語習得,話し言葉データベース,協調学習

1. 研究開始当初の背景

近隣地域の外国語との接触が増大したことにより、日本・中国・韓国など東アジア諸国においても社会レベルの多言語と、個人レベルの複言語コミュニケーションが増大している。当該地域の多言語・複言語使用の特色として、①地政学的に近隣の諸言語と、政治文化的に優位な英語を加えた複数言語の対等な使い分け、②交流相手との協調的コミュニケーション方略の多用を挙げることができる。複言語使用は今後も確実に東アジア全域に波及すると予測できるが、非英語植民地圏にあったため英語運用能力が低く、日本語・中国語・韓国語などの外国語使用は日常生活の場に限定され、講義や研究用言語としての地位が弱い。複言語コミュニケーションの実態調査と分析が遅滞し、高等教育機関や Global 企業、移民行政部門など、現場の言語対策に必要なデータが不足していた。

2. 研究の目的

東アジアにおける複言語コミュニケーションの実践例を収集し、データベースを構築して、実態調査と分析を行う。定量・定性分析に基づいて複言語コミュニケーションのメカニズムを解明し、有効性が検証できた実践例を一般公開することで、複言語使用の外国語教育や政策に役立てる。同時に、複言語コミュニケーションの未来を展望するシンポジウムを開催し、東アジアにおける複言語交流の普及を促進する。

3. 研究の方法

東京・北京・台湾の4大学間で実施する遠隔ビデオ会議の録画を主に、実践例を分析対象とし、データベースを構築する。本ビデオ会議では、各接続地点で母語と外国語を併用した発言を頻繁に観察できる。定量・定性分析により、異言語間・異文化間討論における

複言語コミュニケーションのメカニズムを解明する。会話データを補足する資料として、授業用多言語 Chat データや、海外大学授業の録音資料も収集する。各国の外国語政策に関する調査研究を行い、同時に日本の外国語教育の実態調査と学習者に対する大規模アンケートを行い、地域・言語の枠を超え、多言語・複言語コミュニケーションとその教育方法に関する比較研究を行う。

4. 研究成果

(1)複言語コミュニケーションデータ収集

2013年3月現在、上掲遠隔ビデオ会議録画154回分を収集し、開催期日、テーマ別、参加校情報を付したリストを公開した (<http://www.f.waseda.jp/ksunaoka/fukugengo/index.html>)。このうち中国語会議16本、日本語会議20本、および中日両語による独話文化講義計7話について、動画アノテーションツール ELAN を使用し、テキスト書き起こし作業を完了した。中国語と日本語会議各3本、および独話文化講義7本には、時間情報・ポーズ・Filler など副言語的情報のラベリングと形態素解析情報を付した。他に中国語イマージョン文化講義時の受講学生間の多言語 ChatLog (約50時間分)、中国語授業での自由会話録音 (約12時間分)、オランダライデン大学での英語、オランダ語、中国語による授業録音資料から教師と受講者間に起こるインターアクションについて、日本の大学の英語、中国語使用授業と比較分析を行った。

(2)複言語使用教学プラットフォームの開発

Video Corpus Learning Platform (VPC) を開発し、上掲動画データをアップロードし、言語レベル別に相互閲覧やコメント記入可能な Web 教学プラットフォームを構築した。

23 年 1 月 デ ー タ 公 開
(<https://www.asiancorpus.org/default.aspx?g=postmessage&f=1>)。24 年以降はサーバ維持費の捻出が困難となり、新規 Platform に移行準備予定である。

(3)東アジア複言語使用環境と特徴の分析

多言語、複言語使用の交流環境とコミュニケーション活動に及ぼすメリットとデメリットに関する調査分析を行なった。英語優先の外国語教育政策にも拘わらず、日本の大学の第二、第三外国語の履修希望者は 80%に上り、海外生活体験や研修・留学経験のある学生比率が増加すると同時に低年齢化傾向にある。活動地域の非英語圏への越境につれ、接触する言語や文化が多様化し、個人の言語文化資源も複数化している。東アジアのコミュニケーション行動は、複数言語を協調的に使い分ける実質的で調和を重んじる方式であることが分かった。他言語・広域研究者と連携し、日本の外国語教育の実態調査と学習者に対する大規模アンケートを行い、海外の多言語・複言語政策や教育との比較研究を行った。

(4)複数言語による合同シンポジウム開催

日本における最適な外国語教育法と学習法の開発を目指し、既述の分析成果を踏まえシンポジウムを開催した。(2013 年 3 月 17 日 JACET 教育問題研究会語学との共催、於早稲田大学)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 13 件)

1 佐藤航平, 井上智貴, 田邊稔貴, 千葉薫, 中澤一平, 仲俣将樹, 西野里沙, 砂岡和子、日中対峙討論に見るフレキシブル・アイデンティ

ティーの変容、JACET 教育問題研究会語学教育エキスポ 2013 予稿集、査読有、2013、pp. 77-78

2 大木充, 境一三, 砂岡和子, 塚原信行, 長谷川由起子, 林田理恵, 藤原三枝子 英語以外の外国語教育について-2012 年に実施した全国調査の結果の中間報告をもとに- JACET 教育問題研究会語学教育エキスポ 2013 予稿集、査読有、2013、pp. 17-34

3 砂岡和子, 古川裕, 言語接触がもたらす中国語教学環境と資源の変容、第 62 回日本中国語大会予稿集、査読有、2012、pp. 97-101

4 砂岡和子、非互動参与者的辺縁帰属策略-与漢語課堂同期進行的聊天室实践、清華大学出版社、査読有、2012、pp. 65-70

5 Sunaoka, Kazuko、Effects of Multilingual Chatting Support System, Chinese Distance Learning at Wasada University、The 7th International Conference on Technology and Chinese Language Teaching (TCLT7)、University of Hawaii、査読有、2012、pp. 1-12

6 砂岡和子、羅鳳珠、王雷、姜柄圭、BCCWJ で知る東アジア漢字圏四字成語の受容と変容、言語処理学会第 18 回年次大会 (NLP2012)、査読有、2012、pp. 899-902

7 砂岡和子、鄭偉、植屋高史、谷川栄子、チャット交流における学習者のテーマ選好と言語知識の獲得、電子情報通信学会教育工学研究会技術研究報告(教育工学)ET2010-79、査読有、Vol. 110 No405、2011、pp. 13-16

8 砂岡和子、YU 敬松、多人数互動口語協調性談話策略的定量化分析-漢日跨文化語言教学平台的開發-、数字化漢語教学專題研究 2009-新模式, 新方法, 新技術, 新產品-、査読有、CD-ROM、2010、pp. 60-68

9 羅鳳珠, 砂岡和子、建構詞彙語意知識庫與語言教學策略的多元文化思考: 以「網路展書讀」網站語言文化教學設計為例、日本中国語

学会第 60 回全国大会予稿集、査読有、CD-ROM、2010、pp. 200-204

10 鄭偉, 植屋高史, 谷川栄子, 砂岡和子、コミュニケーション創出に寄与する教室内 Chat と発話支援者および教材の役割、日本中国語学会第 60 回全国大会予稿集、有、CD-ROM、2011、pp. 175-179

11 砂岡和子, 金楓 自律的レベル選択による TTS 利用のスピーキング練習の質向上、2010PCCConference 論文集、有、CD-ROM、2010、pp. 87-91

12 砂岡和子, 満興遠、応用 ICT 的外語学習と学習者の接受能力, 利用中文語音合成技術的会話教学效果与存在問題-数字化对外漢語教学实践与反思 (第七屆中文電化教学國際研討會論文集)、有、CD-ROM、2010、pp224-232

13 砂岡和子、主観知の相対化認知過程としての異文化接触行動、人工知能学会第 24 回全国大会論文集、有、CD-ROM 3I10S14a-4、2010、pp. 267-271

[学会発表] (計 10 件)

1 砂岡和子、日中対峙討論に見るフレキシブル・アイデンティティの変容、JACET 教育問題研究会語学教育エキスポ 2013、2013 年 3 月 17 日、早稲田大学

2 砂岡和子、中国語学習者の学習動機づけ-巨大隣国との接触摩擦の中で-、JACET 教育問題研究会語学教育エキスポ 2013、2013 年 3 月 17 日、早稲田大学

3 砂岡和子、言語接触がもたらす中国語教学環境と資源の変容、第 62 回日本中国語大会、2012 年 10 月 28 日、京都同志社大学

4 砂岡和子、日本人学習者の中国語リスニングストラテジーの特徴とその向上支援ツール、早稲田大学ことばの科学研究所研究会、2012 年 10 月 6 日、早稲田大学

5Sunaoka, Kazuko Effects of Multilingual

Chatting Support System, Chinese Distance Learning at Wasada University、The 7th International Conference on Technology and Chinese Language Teaching (TCLT7)、May25-27, 2012、University of Hawaii, America

6 砂岡和子、アジア共同体への理解-文化と社会の視点から、ワンアジア財団講座、招待講演、2012 年 10 月 11 日、香港理工大学人文学部、China

7Kazuko SUNAOKA、Construction and Analysis of aDisasters News Reports Corpus, proc. ofTHE 8TH INTERNATIONAL CONFERENCE ON NEWTECHNOLOGIES IN TEACHING AND LEARNING CHINESE、招待講演、2012、Shanghai, China

8 砂岡和子、東アジア複言語コミュニケーション支援教材の開発、早稲田大学ことばの科学研究発表会、2010 年 10 月 13 日、早稲田大学

9 砂岡和子、自律的レベル選択による TTS 利用のスピーキング練習の質向上、2010PCCConference 2010、2010 年 8 月 8 日、東北大学

10 砂岡和子、主観知の相対化認知過程としての異文化接触行動、人工知能学会第 24 回全国大会 (JSAI2010)、2010 年 6 月 11 日、長崎ブリックホール

[図書] (計 2 件)

1 植屋高史、鄭偉、谷川栄子、阿古智子、砂岡和子、焦点中国、白帝社、2011 年、pp. 1-105

2 砂岡和子、共感を育む外国語学習支援に向けて、国際化の中のことばと文化、成文堂、2011、pp. 107-112

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)
なし

○取得状況（計 件）
なし

〔その他〕

・研究成果進捗報告
砂岡和子ホームページ

<http://www.f.waseda.jp/ksunaoka/fukugeng/o/index.html>

・WASEDA e-Teaching AwardCCDL 授業部門
砂岡和子「アジア学生ネットワーク-海外の学生と TV 会議で交流し脱ステレオタイプを体験する-」紹介記事

<http://www.waseda.jp/mnc/letter/e-TeachingAward/index.html>

・Web 教学プラットフォーム
Video Corpus Learning Platform (VPC)

<https://www.asiancorpus.org/default.aspx?g=postmessage&f=1>

ただし H23 年 1 月まで。24 年以降はサーバ維持費捻出が困難となり、新規 Platform に移行準備予定。

・試作中

多言語・複言語通訳翻訳訓練用 online 教学プラットフォーム“Computer-aided Translator training Platform”(CATTP)

北 京 大 学 俞 敬 松 設 計
<http://cattp.pkucat.com>

・メディア報道

アジア学生会議取材と学生討論番組企画

NHK BS1 で 2013 年 1 月 13 日放映

「東京・北京 学生たちの対話 どうなる！
日本と中国」

6. 研究組織

砂岡 和子 (SUNAOKA KAZUKO)
早稲田大学・政治経済学術院・教授
研究者番号：70257286

(2) 研究分担者
なし

(3) 連携研究者
なし

(4) 研究協力者
俞敬松

北京大学・軟件与微電子学院・助教授
(H22-H24：海外研究協力者)